

第28回 (2016年度)日本肝胆膵外科学会・学術集会 主催報告

関西医科大学 外科学講座 主任教授 権 雅憲

この度、2016年6月2日(木)から4日(土)の会期で、グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)におきまして、「第28回日本肝胆膵外科学会・学術集会」を無事開催させていただくことができました。この書面を通じまして、本会の開催への多大なるご協力に心より厚く御礼申し上げます。

およそ30年の歴史を有し、年に一度本邦の肝胆膵外科医が一同に会する本学会の開催にあたりまして、教室員一同大変栄誉に感じております。

たものがあるにも関わらず、情報発信という点では、まさしく“臥龍”の状態にありました。本学会が世界に誇る肝胆膵外科高度技能医制度は、若手外科医に大きな機会を与え、“鳳雛”を発掘しうる制度となることが期待されています。



第28回の学術集会では、“臥龍鳳雛”をテーマとして採用いたしました。日本の肝胆膵外科の手術手技や患者管理方法は、非常に優れ



本学術集会では、安全かつ効果的な肝胆膵外科の手術適応、手術手技や周術期管理に関する古今東西共通のトピックスに加え、本学会が世界に誇る肝胆膵外科高度技能医制度の役割、優れた肝胆膵外科技術、これから世に出るべき萌芽的研究を世界の外科医と議論して、世界へ発信することを目的といたしました。

開催概要報告

特別演題235題、U-40セッション42題、ビデオ227題、要望ポスター235題、一般ポスター681題を合わせまして全1420題と多数のご応募を賜りました。当日は、2180名の参加（招聘者含む）となり、中でも米国、欧州、ロシア、トルコ、インド、中国、韓国、台湾、他のアジア諸国から外国人170名と多数の先生方にご参加いただき、国際色豊かな学会となりました。ご参加いただきました先生方の熱意とご尽力に改めまして心より御礼申し上げます。



学会プログラム

学会プログラムは、特別企画(肝胆膵外科領域の臨床研究)、プレナリーセッション、IHPBA/APHPBA合同シンポジウム、日韓ならびに日台共同プロジェクト会議、腹腔鏡下胆嚢摘出術難易度評価に関する国際プロジェクト、日韓台内視鏡外科合同シンポジウム、国際シンポジウム(肝胆膵外科手術の周術期管理)、ディベートセッション、ラウンドテーブルディスカッション(膵癌術前治療)、ビデオシンポジウム((癌)手術における術野の展開方法)、教育パネルディスカッション(高度技能専門医への道、そしてこれから)、国際パネルディスカッションや国際ワークショップ、教育セミナーや教育ビデオを通じて、海外の演者を含んだ国際色豊かな議論の場になるよう構成いたしました。さらに2017年度第29回学術集会の100%英語化に向けて、主題・教育セッション全体の93%を英語セッションとして設定いたしました。



International Debate



Prof. Jacob Izbicki

会長講演・社員総会

会長講演では、日本肝胆膵外科学会理事長宮崎勝先生の座長のもと、権雅憲会長が“Challenges in the Treatment of Liver and Pancreatic Cancer”というタイトルで、当科における肝臓癌と膵臓癌の治療成績と将来展望の講演を行いました。



会長講演

6月3日に開催された社員総会では、本学会が世界に誇る、高度技能専門医43名の認証式が行われました。当科からは石崎守彦先生が6人目の合格となり、高度技能専門数では全国有数の施設となっています。



日本肝胆膵外科学会高度技能専門医認証式

拡大プログラム委員会

朝8時から夕刻19時までセッションが組み込まれるというタイトなスケジュールの後には、趣向を凝らしたSocial eventsを用意いたしました。里井准教授の司会の下、拡大プログラム委員会では、320名の参加者のもと盛会に進行し“打打打打 天鼓”による、和太鼓パフォーマンスを観劇しながら、フルコースディナーを楽しんでいただき、本学会員ならびに海外招聘者との貴重な時間を意見交換が行われました。本学学長の友田幸一先生、本学会理事長の宮崎勝先生、学会名誉創立者の高田忠敬先生にご挨拶をいただきました。



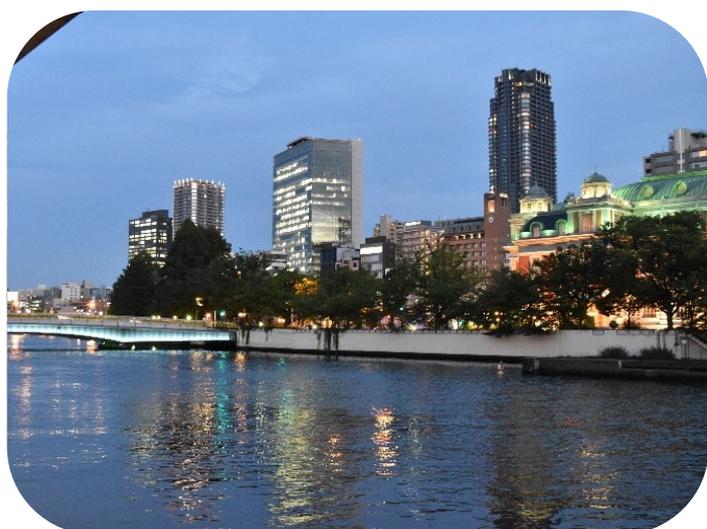
全員懇親会

全員懇親会は、リーガロイヤルホテルで開催され、およそ300名の会員の先生方のにぎわい、柳本先生の司会の下、チアガールのパフォーマンスを観劇しながら、大阪の特色ある料理に舌鼓をうちました。



Faculty Dinner

海外招聘者43名と学会理事の多大なる貢献に報いるために、堂島川沿いで中央公会堂を望める立地で、ささやかなブッフエスタイルのパーティを催しました。オープンエアーの開放的な空間で、大阪の特色ある料理を堪能していただきました。夕刻から日没ならびに夜にかけてのイルミネーションが美しく、その中で大阪城までのリバークルーズも楽しんでいただきました。



おわりに

本邦の肝胆膵外科医のための学会である第28回日本肝胆膵外科学会を担当させて頂きましたことを大変光栄に存じております。本年度も例年同様数多くの参加者に恵まれ、さらには170名もの海外の肝胆膵外科医の参加があり、過去最大級の盛会をもって終えることができました。

本会でご講演を頂きました先生方、また演題をご応募くださいました先生方、お忙しい中ご参加を頂きましたすべての先生方、ならびに本学会の運営を快くサポートしていただきました関西医科大学外科学講座医局員と同門会関係の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。

来年度は、日本肝胆膵外科学会とアジア太平洋肝胆膵外科学会の共同開催となり、東京女子医科大学の山本雅一教授の指揮の下、第29回学術集会が2017年度6月7日から10日までパシフィコ横浜で開催されます。来年度から口演セッションはすべて英語化され、さらなる本会の発展が期待されております。本年に引き続き、来年のご参加も何卒よろしくお願い申し上げます。

本会が皆様にとって新たな礎となり、翌日からの臨床に役立つことを祈念いたしまして御礼の言葉とさせていただきます。

関西医科大学外科学講座 主任教授
権 雅憲

